

自分への付加価値



加藤 千賀子

か資格がほしいな、自分への付加価値がほしいな、と思うようになり社労士を目指しました。

私の勤務先は、いろいろな資格をもっている男性技術職が多く、私も何

2冊のテキストを用意し、「1冊目テキストで労働基準法を読み込み、

次のテキストでもう一度読み込み、違う角度からも理解する。

そしてすぐに同法の予想問題を解き、解いた内容の部分をもう一度テキストでチェックする」この繰り返し勉強を各法律ごとに行いました。

また、日頃から労働関係機関紙を読んでいたことで、試験に出てくる長い判例にも落ち着いて理

解し、解答を導き出すことができました。

勉強時間は夕食後の毎日2時間で、土日もそのスタイルです。ただ、試験1カ月前の土日は、予想問題を本試験と同じ時間で解いて、試験慣れするようにしました。

自分への付加価値がほしくて、やっと手に入れることができた社労士資格です。今後は、この知識を実務に役立てていきたいと思っています。

(団体職員)

その分、本講座の先生方から、私が欲しかった業務上の知識にとどまらず、顧客本位である仕事への熱い思い・信念・サービスピ精神、思いやりなどなど……、多くのことを勉強させていただきました。合格報告時には、実感のない私より先に、涙目で喜んでくれた先生方もいらっしやいました。逆に私がもらい泣きしたほどです。合格は嬉しかったものの、講座に通えなくなるのは少し寂しいとさえ感じました。

社労士合格というひとつのゴールは果たしましたが、まだまだ知識も足りません。また毎年法改正も多いため、今後も勉強を続けてまいります。そして、協会の先生方を手本に、信頼される業務に努めていきたいと思

います。
(常滑商工会議所勤務)

信頼される業務に努めていきたい



棚橋 美保

ok」平成27年12月号にて合格者紹介をしていただきましたところ、ご覧になられた多くの知合いの方より、お祝いのメールやお言葉をいただ

きました。本機関誌を楽しみにご購読されている方の多さと影響力の大きさにびっくりいたしました。

さて、私の社労士講座受講のきっかけは、主に業務での必然性でした。労働保険事務組合の一業務担当であり、同時に社会保険関係、就業規則についてなど、お客様から

ある程度の知識はついたかなあと思ったものの、社労士合格には、長い月日がかかりました。ただ

いきなりではございませぬが、機関誌『Meihoku』